
道 生きる、生きるっていったい、、、、

夢咲白懂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

道 生きる、生きるっていたい、、、

【Nコード】

N 5 4 7 6 M

【作者名】

夢咲白憧

【あらすじ】

生きる理由が分からなくなった時、ノートに書き記してできたものの。

これが全てとは限らない。もしかしたら全て綺麗事に過ぎないかもしれない。

それでもこれが当時の私（中学時代）の結論だ。

（前書き）

「落ちこぼれ」

人は私をみてそう言う。

「役立たず」

人は私をみてそう言う。

それでも私は

秀才な貴方や

そうでない貴方とも

同じ生物、人間なのだ。

落ちこぼれや役立たず

なんて人間はこの世に

一人も存在しないのだ。

道が消えてしまった。

どこまでも続いていたあの道が…
消えた。

今、私の目の前から…

なにも見えない。

なにも感じない。

私は今どこにいるの？

私は今どこに立っているの？

道が見えない。

ずっと、ずっと、

前からそのあつた道が

私の目には見えない。

なにも見えない。

ついさっきまであつた道が

さっきまで私の目に映っていた道を

私は見ることができない。

目の前にあるはずなのに

私には見ることができない。

その道は、いつたい…？

どんな道だったのだろうか？

今まで見ていた道はなんだったのだろうか？

道は消えていない。

私の目に見えないだけなのだ。

私が見えなくなっただけなのだ。

今でも道は存在する。

私の目の前に、

そして今…

私はその道に立っている。

今も昔もずっと、ずっと立っている。

そうだ！…思い出した。

その道はずっと

自分の力で歩いてきた道だった。

誰の道でもなく

私だけの、

私、ひとりだけの道なのだ。

その道は初めは存在すらなかった。

その道は私がこの世に存在したとき

なぜか突然、私の目の前に現れた道なのだ。

その道は、私が生まれてから死ぬまでの道だ。

私が死ねば道も死ぬ。

つまり、道はそこで消えてしまう。

なら、道が見えない今

私は死んでしまったのだろうか？

いや、私は死んでなんかいない！

なぜなら、私は今もその道に立っている。

私の目には見えてはいないけど、

私の足は、私の体を支えて立っている。

なら、なぜ道が見えない。

「よく目を開いて見なさい」

声が聞こえる。

私は辺りを見回す。

私の周りには黒い雲みたいなものが…

ほら、あっちにも！こっちにも…

そう、暗い暗い闇の中、

私は、立っている。

この黒い雲みたいな暗闇が

私の道を見えなくしているのだ。
なぜ、暗闇は私の道を隠すのだ？

私の心に暗闇の黒い雲みたいのが覆っているから……？
なら、なぜ？

私の心に闇がある……

私が迷っているから！？

迷う？ いったいなにに？？

それは……

生きる、生きている事に私が迷っている……？

生きる、生きている事に迷うっていったい

どういうこと？

……

死にたいってことか？

死にたい……

自分自身を否定し、

自分自身の存在理由、

生きていく意味、

それが、わからなくなってしまったから。

なぜ、私は生きているの？

どうして私はここにいるの？

私はわからない。

なにも、わからない。

私が生きている理由も、

存在する意味も、

すべての事が……

もう、疲れた。

もう、なにもしたくない。

もう、死んでもいいのかな？

生きてる意味ってあるの？
ねえ？

死ぬってどういう事？
死ぬってなに？

自分で自分の命を捨てるって、
いったいどういうこと？

苦しいから死ぬんだ。

なにかに開放されたいから死ぬんだ。

…私が死んだらどうなるの？

誰かが泣いてくれる？

まさかね、いったい誰が？

誰が私の為なんかに涙を流すの？

借金地獄から逃れるための死、

虐めから逃れるための死、

色んな死があるけど、

誰も泣かないよ。

泣いてはくれるよ？

でもね、誰も笑って、笑顔で自分の最後を見てくれない。

自分自身で命を落とすこと、

目を瞑り、誰かがそこに映ったなら、

それは迷惑の事なんだ。

命ってなに？

死んだらどうなるの？

死ぬってなに？

死んだら二度とはここに戻らない。

自分自身の命を捨てるってことは、

結局そこから逃げてるだけなんだ。

それって、なんかちよっぴり悔しいかもね。

声がする。

暗い暗い闇の中、

誰かの声が…

誰？

誰の声？

え？なに？

…声が聞こえる。

人は…二度死ぬ！？

それってどういうこと？

誰かが私に囁きかける。

「一度目の死は命の死」

…そんなの知ってる。

当たり前だ。

え？なに？

二度目は…

「二度目の死は魂の死」

魂の死？それは、なに？

「魂は他の者の中に宿るもの」

他の者の中？

「中とは心、心とは想いのこと」

想い…

「つまり他の者の中に宿るとは、

人の想い出の中で生きているということ」

人の思い出の中で…

「それはそんな簡単に消えることのできぬもの」

つまり…

人は死んだら、誰かの想い出の中で生きるって事？

それは、

誰かに忘れられない限り人は生き続けるという事…

「誰かの存在を無にすることは不可能」

それはつまり…

「人の魂は永久なり」

だったら、命の方はどうなるの？

「次の世代に行けるか、行けないか」
次の世代？

「善い行いをした者は行け、そうでない者は無となる」
無？

「無となり、また新たな命となりそこに存在する」
無になる人は、どんな人なの？

「他の命を奪ったり、他の者を傷つけたり、
善い行いをしなかった者たち」

じゃあ、自分自身で命を捨てた人はどっちなの？

「その者は無となる」

すごく良いことをした人でも？

「それでも無となる」

なんで？

「例えどんな善き行いをしていたとしても、

その者は皆、命を奪った者達」

みんな？それは…

「自分自身の命を絶つ行いは最も愚かな行為」

でも、仕方ないことだってある。

辛くて辛くて、もう何もできなくて、

『ガンバレ！』って言葉がどんなに辛く、

どんなに自分自身を追い込むか…

「それでも生きなさい」

なんで？もう疲れたよ。

もうなにもないんだよ？

「なにもない？それは本当に？」

もう駄目だと思ったとき、目を瞑りなさい。
そして見てごらん？そこにはなにが見える？

そこには貴方の大切ななにかがあるはず。
それが支えとなり、

貴方にもう一度立ち上がらせる勇気をくれるだろう。
生き続けなさい。

生きるとは、この世で最も美しく素晴らしいもの。

死ねばそこで終わる。しかし生きること、

なにかが変わることもきつとあるはずだ。

きつとこれから善い事が起こる。

生き続けなさい。

大切ななにかが少しでもあるなら……」

声が、声が消えていく……

光だ。光が見える。

雲が、黒い雲も、

暗い暗い暗闇も、

どんどん消えていく。

道だ！道が見える！！

道が見えた！！！！

さつきまで見ることでできなかった道が、

今、はつきりと見える。

…私の迷いがなくなったから？

いつのまに？

少しでいい。

一歩。まずは一歩。

そしてその道は出来上がる。

私はその道を歩いていく。

私が歩き、私自身が作る道。

果てしなく続く命の道。

途中、落とし穴だってあるだろう。

高い壁だってあるだろう。

きつとまたいつか道が消え、

挫折してしまうときもくるだろう。

それでも歩き続けよう。

辛いときは、目を閉じ、大切ななにかを思い出そう！

そしてまた、少しずつ歩いていこう。

なぜなら、

それが私の道だから。

誰のでもない

私が歩む、私自身の道だからだ。

（後書き）

へたくそな文に最後までお付き合いくださいました方。
また少しでもご覧になられた方。

心よりお礼申し上げますm（——）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5476m/>

道 生きる、生きるっていたい、、、、

2010年10月26日00時02分発行